

令和 8 年度 議会地域懇談会（白川北地区）

令和 8 年 6 月 2 7 日（土） 白川北ふれあいセンター

参加人数 3 7 名

テーマ「これからの地域コミュニティは？」 「移住者と交流人口の増加に向けて！」

テーブルごとの意見まとめ

■ 1 番テーブル（伊佐治副議長）

高齢化や運転免許返納後の移動、役員の兼務、空き家や土地の管理など、暮らしを支える負担の増加が課題として挙げられました。一方、住民による送迎や「草刈り隊」など、地域内の支え合いも行われていることが示されました。子育て世帯の移住を促し、移住者も地域活動に参加しやすい関係を築くほか、廃校や空き地を活用した体験農業、抹茶ブームを生かした商品づくり、動画やインターネットによる情報発信など、外から人を呼び込む取組が提案されました。

■ 2 番テーブル（野尻議員）

子どもの減少や若者の流出、世代間交流の少なさが課題として挙げられました。サロン活動は女性中心で、男性が気軽に集まり話せる場が少ないことから、男女や世代を問わず交流できる場づくりが必要との意見がありました。また、茶の栽培者の減少、茶園管理の負担、空き家や田畑の管理など、地域資源の継承に対する不安も共有されました。国道 4 1 号や J R 高山線が通る利便性を活かしながら、企業誘致、買い物環境の改善、ピアチェーレ周辺へのカフェ誘致、白川小学校の廃校利用、古い写真の保存・展示など、地域の魅力を活かした交流づくりが提案されました。

■ 3 番テーブル（杉山議員）

地域の将来に対する漠然とした不安が共有され、町が 5 年後、1 0 年後の地域の姿を具体的に示し、住民とともに今後の対応を考える必要があるとの意見がありました。小規模集落では高齢化が進み、単独で地域活動を維持することが難しくなっているため、自治会の合併や、より広い地域単位での活動を求める声が出されました。また、地域の役が多すぎることや、効果の薄い活動の見直しも課題とされました。移住者や交流人口の拡大に向けては、遊休地や空き

校舎を活用した芸術家の仕事場、レンタルオフィス、大山白山神社や大山小学校のPR、道の駅と鉄道駅を組み合わせた話題づくりなどが提案されました。

■ 4 番テーブル（三戸議員）

白北地区では地域行事が少ないため、少しずつ交流の機会を増やしていく必要があるとの意見が出されました。子ども食堂のように、ふれあいセンターを拠点とした居場所づくりや、廃校となる白川小学校を地域のよりどころとして活用する案も示されました。一方で、地域の役や負担を減らし、無理なく助け合える環境を整えることも重要とされ、災害時の連絡手段としてLINEグループなどを活用する提案もありました。移住者・交流人口の増加に向けては、国道41号やJR高山線が通る利便性を活かし、定住だけでなく二拠点生活の場所としてPRすることや、大山白山神社を中心としたツアー、専門ガイドの養成などが提案されました。

■ 5 番テーブル（佐伯議員）

人口減少と高齢化、コロナ禍以降の交流機会の減少により、地域内のつながりが弱くなっていることが課題として挙げられました。住民が減る一方で自治会や地域の役職は多く、負担軽減や役の整理を求める声がありました。地域コミュニティの再生に向けては、白川小学校を活用し、カラオケ、ジム、高齢者の暮らしを支える拠点、地域の古い写真を集めた展示など、多目的な交流拠点とする案が出されました。また、移住者の受け入れについては、生活ルールや地域文化の違いによる摩擦を防ぐため、会費や役職を一定期間軽減する「準会員」のような仕組みも有効ではないかとの意見がありました。

■ 6 番テーブル（梅田議員）

住民自身が地域活動を義務としてではなく、楽しみながら関わられるようにすることが重要との意見が出されました。コロナ禍を経て、歩け歩け大会や夏祭りなど、これまで続けてきた行事についても、本当に必要なものを見直し、住民が運営に追われるだけでなく、地元の人自身が楽しめる形に変えていく必要があるとされました。また、農業や景観維持については、機械代、後継者不足、お茶の生産コスト、草刈りや山仕事の負担など、経済的・労力的な限界が共有されました。若者や移住者の発想力や挑戦する力を活かすこと、農業に関心を持つ人と地域資源を結びつけること、お試し居住により地域の良さと現実を知ってもらうことなども提案されました。

■ 7 番テーブル（藤井議員）

移住者との関係について、田舎の暮らしのルールや自治会活動、草刈り・掃除などの地域の付き合いが十分に理解されていないことが課題として挙げられました。特に別荘的に利用する人との間で、地域との関わり方に問題が生じているとの意見がありました。また、白川北ふれあいセンターで行われている子ども食堂の取組が紹介され、子どもや保護者、高齢者を含めた地域の交流の場として機能していることが共有されました。その他、国道41号上麻生防災、ごみ袋の価格、塾がないことによる教育面の不安、高校卒業後に若者が戻ってこないこと、町道や県道沿いの草刈り時の事故やけがへの不安など、生活環境に関する幅広い意見が出されました。

■ 8 番テーブル（田口議長）

白川北地区の夏祭りがふれあいセンターで開催されるようになり、各地域からの出店やキッチンカー、飲食店の出店、花火などにより盛り上がったことが共有されました。また、近くで気軽に参加できるヨガ教室や、サロン、茶飲み会、若妻会のような集まりがあれば、地域内の交流機会が増えるのではないかと意見がありました。移住者・交流人口の増加に向けては、移住者との交流会、農地付き空き家の活用、地域で集まる機会の増加、美化作業への移住者参加などが提案されました。今後、高齢化により自宅周辺の草刈りも難しくなることを見据え、草刈りなどを手伝った人に「しらかポイント」を付与するような、地域独自の助け合いの仕組みも提案されました。

白川北地区のまとめ・特性

白川北地区では、高齢化と人口減少に伴い、地域活動の維持、役員負担、草刈りや空き家管理、移動・買い物支援、働く場所の不足など、暮らしに直結する課題が多く出されました。特に、地域の担い手が減る中で、従来どおりの行事や役割を続けることの難しさが共有され、負担を減らしながら、無理なく人が集まれる場をつくる必要性が語られました。

一方で、国道41号やJR高山線が通る利便性、大山白山神社、白川小学校跡地、白川北ふれあいセンター、子ども食堂、古い写真や地域行事の記憶など、白川北地区ならではの資源を活かした提案も多くありました。定住だけでなく、二拠点生活や体験型の交流、地域資源を組み合わせたツアー、空き家や廃校の活用など、外から人を呼び込みながら、住民自身も楽しめる地域づくりを進めていこうとする前向きな意見が目立ちました。